

令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 **(英語)** 教科担任名:

★教科・観点について
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	1学期			2学期			3学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	1年	<p>○日々の授業における英語を話すことへの意欲は高い生徒が多く、積極的に英語を話す様子が見受けられる。</p> <p>▲コミュニケーションを継続するための表現がまだ身に付いていないので、単調なやり取りしかできていない。</p>	<p>日々の授業でクラスルームイングリッシュを活用し、自然な流れで英語を使えるような機会を増やしていく。</p>				
	2年	<p>○英語を使って何かを表現したり、言いたいことを伝えようとする意識が高まっている。</p> <p>▲どのように話せば相手に伝わるかという意識が不十分である。</p> <p>○完全な文を作れなくても、伝えようとする意識が高まっている。</p> <p>▲パフォーマンステストにおいて、積極的に相手に伝えるように話すという意識が不十分である。</p> <p>○様々なactivityにおいて意欲が高く、多くの人と話そうとしたり、積極的にペアワークに取り組む様子が見受けられる。</p> <p>▲英語や学習そのものへの意欲が低い生徒の場合、ペア活動が成立しない。消極的で伝わりにくい生徒もいる。</p> <p>○英語を使ってのペアやグループでの活動には意欲的に取り組んでいる。</p> <p>▲正しく相手に伝えようという意識が低い。</p>	<p>普段のペアワークやグループ活動の際に、相手に伝わる話し方をする練習をとりいれる。</p> <p>ペア・グループが円滑に進むような座席・組み合わせに変更し、相手に伝わるような話し方を繰り返し意識させるようにする。</p> <p>会話のパターンをさらに焦点化してわかりやすくする、ミスしやすい点をあらかじめ紹介してから活動させる。</p>				
	3年	<p>○英語を学ぼうという意識は高い。授業への参加も意欲的である。</p> <p>▲自分の考えをまとめて発表する意欲の高まりが期待される。</p>	<p>発表の機会を多く設定し、さらに発言を促す呼びかけを増やす。発表しやすいように具体例を紹介する。</p>				
表現の能力	1年	<p>○パフォーマンステストにおける話す際の英語表現の能力は高く、英語らしい発音を意識して話せる生徒が多い。</p> <p>▲期末テストの結果における、書く際の表現の能力には課題がある。</p>	<p>文法指導に着目するのではなく、英語を書く際の最低限必要なルールのみ徹底し、間違いを恐れず積極的に英語を書いていけるような活動をさせていく。</p>				
	2年	<p>○Picture Describingを通して、未収の表現を含め、自分が言いたい表現を身に付けることができた。</p> <p>▲即興で英語を話したり書いたりする際に、語順の意識が弱くなり、目的語を先に持ってきてしまうなどのミスが出る。</p> <p>○Picture Describingを通して、様々な表現を身に付けることができた。</p> <p>▲期末テストにおいて、英語を書いて表現する際に動詞がぬけてしまうなどの課題がある。</p> <p>○発音や英作文が苦手な生徒も、友達と一緒に音読練習をしたり、周りのアイデアを活用して文を書くようになってきた。型がある程度決まっているものだと書きやすい。</p> <p>▲言いたいこと・書きたいことが浮かばない生徒への支援</p> <p>○画像などを見て状況を説明しようとする努力が見られる。</p> <p>▲語彙の定着が不十分で表現しきれないことも多い。</p>	<p>授業中に自分が話したり聞いたりしたことを書く作業を授業のまとめとして取り入れるとともに、常に語順を意識させるるように工夫する。</p> <p>授業中に自分が話したり聞いたりしたことを書く作業を授業のまとめとして取り入れ、正しい文を書けているかチェックするようにする。</p> <p>skit作りなどでは、ある程度の設定や制限を与えた上で自由に表現させるようにする。授業のまとめとして、本時に習ったことや、友達の発表に出てきたフレーズを書かせるようにし、正しく書けたかチェックする。</p> <p>既習単語の復習の機会を多く設定する。特に、教科書の太字の単語をくり返し授業で使用する。</p>				

令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 **(英語)** 教科担任名: _____

★教科・観点について
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。〈○成果 ▲課題〉

観点	1学期		2学期		3学期	
	学年	課題分析	具体的な改善策	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
理解の能力	3年	○相手に伝えたい内容を表現しようと努力している。 ▲書いて相手に伝えるという点では不十分な生徒が多い。	教科書のDrillでオリジナル文を考えさせ、なるべく多くの生徒に発表させる。ノートに英文を書く練習機会を増やす。			
	1年	○期末テストの結果における、聞く際の英語理解の正答率が高い。 ▲読み取りの際の、話し手の意向の深い読み取りにまでは達していない。 ○期末テストの結果における、聞く際の英語理解の正答率が高い。 ▲読み取りの際の、話し手の意向の深い読み取りにまでは達していない。イラストから場面や会話の想定ができない生徒もいる。	日々の授業の読む活動の際に、単に音読や訳す活動をするのではなく、そこに込められた意向を意識させて読み取れるように指導していく。			
	2年	○リスニング、長文読解ともに、大まかな内容をつかむことができる生徒が多い。 ▲長文読解において、細かい内容を読み取ることに苦手意識のある生徒が多い。 ▲長文に苦手意識のある生徒が多い。 ○長文を読むコツを踏まえて、既習したものと似た話題の長文であれば読めるようになる生徒も出てきている。 ▲単語が書けない生徒への支援と、初めて見る長文に対する抵抗感をなくす必要がある。 ○CDの英語や先生の英語を聞いて理解しようとする意欲が高い。 ▲文章を読んで大意を把握するという力は今ひとつである生徒が多い。	教科書の長文だけでなく様々な長文にふれられるようにする。その際、段落ごとに大まかな意味を理解してから、精読を行うように指導し、どんな内容の文章でも読解できる力を身に付けさせる。 教科書の長文だけでなく様々な長文にふれられるようにする。その際、文の構成に着目して読解を行うように指導し、どんな内容の文章でも読解できる力を身に付けさせる。 易しい単語で書かれた身近な話題の長文を読む機会を増やす。トピックセンテンスを見つけたり、少しずつできた実感を持てるように指導・支援する。 教科書の英文だけではなく、いろいろな英語に接する機会を増やす。授業を基本的に英語で進め、理解力の伸張を図る。			
	3年	○英語の文章を読んだり英文を聞いたりして、概要を理解することができる生徒が多い。 ▲細かい点では理解が不十分である場合が多い。	授業の最初の帯活動として100語程度の英文を読む、各都道府県の過去のリスニング問題に挑戦し、いろいろな英文を聞き取れるようにする。			
	1年	○日々の授業内で行う、知識の確認問題における正答率が高い。 ▲期末テストにおける知識分野の正答率が低い。	学んだ知識を長期的に活用できるように、定期的にワークブックで復習をさせたり、単元ごとに振り返りの活動を行ったりしていく。			
言語や文化について	2年	○単元ごとに見ると、内容や言語材料はかなり定着している。 ▲既習の事項や表現を、新たな単元で応用して使用したり、使いまわすことが苦手である。 ○単語を書く問題の正答率高かった。 ▲期末テストにおける整文序列問題の正答率が低い。	普段の授業の活動において、既習事項を取り入れてテーマを与えたり、考えさせることで、意図的に繰り返し使うようにする。 普段の授業の活動において、英文の基本的な語順を、日本語の語順と比較しながら、常に意識させて指導する。			

令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 **(英語)** 教科担任名: _____

★教科・観点について
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	1学期		2学期		3学期	
	学年	課題分析	具体的な改善策	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
基礎的な知識・理解	1年	○導入時に映画や音楽、文学等の話題を通して英語の理解を深めた生徒も見受けられた。▲語順、動詞の抜け、be動詞と一般動詞の区別にまだ課題がある。 ○背景の文化などについていろいろな知識を持っている生徒が多い。 ▲文法上のルールや語彙についても増やす必要がある。	生徒が身近に感じられる話題を取り入れ、日本語や日本の文化との比較ができるようにしていきたい。特に語順や品詞の役割なども意識させるようにする。 既習単語の復習の機会を多く設定する。特に、教科書の太字の単語をくり返し授業で使用する。			
	3年	○語形変化や文法についての知識を多く身につけている生徒が多い。文化比較についても理解している生徒が多い。 ▲より多くの正確な知識を身につけるとさらに良い。	授業内の小テストや長期休業明けのテストなどにより、より正確な語彙力を身につけられる機会を設定する。			
授業改善の検証方法	・パフォーマンステスト ・定期テスト ・ノートやファイル点検					
研修課題(キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題	
自分を知る力	1年	将来英語を自在に扱えることを目標にし、まずは自分の英語能力を理解させる。そのために1学期の学習計画、学習手段、学習結果を振り返り、次への目標を立てさせる。 将来英語を自在に扱えることを目標にし、まずは自分の英語能力を理解させる。そのために1学期の学習計画、学習手段、学習結果を振り返り、次への目標を立てさせる。	一学期の期末テストの結果をもとに、そこに至る学習の様子を様々な視点で振り返ることができた人が多くいた。反面、自分には何が必要なのかを見極められていない人も顕在し、二極化が進行しつつある。 一学期は、意欲的に授業に取り組めた生徒が多かった。教科書の英文など、活発に発話練習を行っている。一方、書くことについては、まだ文字と音声結びついていない生徒が多く、今後力を伸ばしていきたい。			
	2年	・ペアワークやグループ活動をととして、それぞれが考えた英語を共有することで、表現の幅を増やす。 ・パフォーマンステストにおいて、自分の考えを正確に相手に伝わるように話すことを評価項目に取り入れる。 ・ペアワークやグループ活動をととして、それぞれが考えた英語を共有することで、表現の幅を増やす。 ・パフォーマンステストにおいて、自分の考えを正確に相手に伝わるように話すことを評価項目に取り入れる。	○毎単元パフォーマンステストを行い、4技能をバランスよく学習することができた。 ○Picture Describingをととして、様々な表現を学習することができた。 ▲「言えるけれど書けない」生徒を、「言えるし書ける」という状態まで指導すること。 ○毎単元パフォーマンステストを行い、4技能をバランスよく学習することができた。 ○Picture Describingをととして、様々な表現を学習することができた。 ▲書いて表現する能力が乏しいため、話せるし書けるという状態にまで指導すること。			
		将来英語を自在に扱えることを目標にし、まずは自分の英語能力を理解させる。そのために1学期の学習計画、学習手段、学習結果を振り返り、次への目標を立てさせる。	一学期の期末テストの結果をもとに、そこに至る学習の様子を様々な視点で振り返ることができた人が多くいた。反面、自分には何が必要なのかを見極められていない人も顕在し、二極化が進行しつつある。			

令和2年度授業改善プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名 **(英語)** 教科担任名: _____

★教科・観点について
 学力向上のための調査・期末テストび学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	1学期			2学期			3学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
	3年	ペアワークやグループワークなどによって、英語力に違いのある生徒の小集団がお互いに教え合う機会を設定している。	○ペアワークではある程度継続的な取り組みができて効果を上げたと考えられる。 ▲授業形態の制限(コロナ対策)により、小集団での活動は十分に実施できていない。				